

研究結果報告書

中世社会における夢窓派禅僧の多元的役割についての研究

所属：浙江樹人大学 外国語学院 日本語学科
役職：准教授
氏名：任 萍

「中世社会における夢窓派禅僧の多元的役割についての研究」研究結果報告書

中世社会における禅僧は本来の機能や職掌を超え、政治、経済、文化の各方面で果たした社会的役割は大きい。そのうち、抜群の勢力を示し、足利幕府の経済、政治、外交など様々な面に深く関与していたのは、夢窓疎石とその門派の人々であった。

夢窓疎石は公武の双方から帰依を受けた中世禅林の中心人物の一人であった。安国寺や利生塔を設置したことによって夢窓派の勢力を拡大した。足利直義に天竜寺船を中国に派遣すると建言し、幕府が直面した経済危機を乗り越える力になった。

五山の最高機関である僧録を幕府外交の実務機関の性格を付与するにあたっては、夢窓の甥である春屋妙葩の力によるところが大きい。春屋は中国の土を踏んだことはなかったが、中国の禅僧と密接な関係を持っていた。初代僧録を担当した春屋は幕府の外交文書の起草により、幕府外交の実務に携わるようになった。

義堂周信と絶海中津は二人とも夢窓の嗣法者であり、夢窓派の発展においてそれぞれ重要な役割を果たしていた。義堂周信は室町初期におけるナンバーワンの学問僧であり、禅学、儒学、詩学などの面にかなり造詣が深い。義堂は身に付けた豊かな学識を活かし、鎌倉公方足利基氏・氏満父子や3代将軍足利義満を補佐し、幕府と深い信頼関係を築いた。

絶海中津は中国に渡来したことがあり、中国禅林の文章作法「蒲室疏法」を日本に定着させることによって、日本禅林四六文の体裁を整えたのである。絶海の文学伝承とその活動は五山文学の内容を豊かにし、文学僧としての絶海の値打ちを端的に現している。絶海は明太祖に召見されたことがあり、明皇帝から絶大な信頼を持っていた高僧季潭、道衍などとの間に、極めて太いパイプを有する禅僧であった。それゆえ、足利義満の対明交渉に重任を任せられた。

結論として、中世における宗教、文学、政治、外交などという多領域で活躍していた夢窓派禅僧は、重要な社会的な役割を果たし、五山僧が官僚化、世俗化することを推し進めていたことが明らかである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

- ① 「五山の学問僧としての義堂周信についての研究—『空華日用工夫略集』の記載により—」・任萍・2015年日本学研究国際シンポジウム並びに中国日本語教育研究会西北分会成立大会・2015年5月8日～10日・西安外国語大学
- ② 「日本中世禅僧の特徴を論じる—臨済宗夢窓派禅僧を中心に—」・任萍・2015年度日本語教育と日本学研究国際シンポジウム—もっと広い視野に立つ日本学研究・2015年5月15日～17日・上海理工大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- ① 「室町時代における夢窓派禅僧の文学観についての研究—絶海中津を中心に—」・任萍・第12回東アジア比較文化国際シンポジウム論文集・投稿中
- ② 「五山の学問僧としての義堂周信についての研究—『空華日用工夫略集』の記載により—」・任萍・日語学習与研究・投稿中
- ① 「室町時代における幕府上層部の高級顧問としての義堂周信についての研究」・任萍・日本問題研究・投稿中

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)